

卒業後のキャリア形成に及ぼす要因の検討 (2)

Investigation on factors affecting to the career formation after graduation (2)

本田 周二¹, 岩瀬 靖彦², 吉田 真知子³, 佐藤 祐子⁴, 戸田 里和⁵

Shuji Honda¹, Yasuhiko Iwase², Machiko Yoshida³, Yuko Sato⁴, and Satowa Toda⁵

¹大妻女子大学人間関係学部, ²大妻女子大学家政学部, ³東京聖栄大学健康栄養学部, ⁴東京医療保健大学医療保健学部, ⁵大妻女子大学人間生活文化研究所

キーワード: キャリア形成, 学生生活, 資格

Key words: Career formation, Campus life, Qualification

1. 研究目的

現在の日本における大学では, 進学率の向上などにより多様な学生が入学するようになっており(いわゆる, 大学全入時代), その結果, 学生の質の変化(将来の職業や学修への自覚の欠如)が指摘されている。また, 産業構造や就業構造の変化といった社会全体を通じた構造的な問題も生じている中で, 近年, 大学に対する社会的な要請が大きく変わりつつある。

その一つの大きな柱が大学の教育改革(教育の質保証)である。大学教育・授業を取り巻く様々な環境整備(学生による授業評価, ファカルティ・ディベロップメント, GPAによる厳格な成績評価など)を行い, 学生にしっかり勉強させる, 学生がわかるような授業をすることを大学はこれまで以上に求められている(溝上, 2006)。このように, 大学の教育改革には様々なものがあるが, その中でも現在, 特に重要視されているのは, 卒業時の質保証であろう。卒業後に活躍できる力を在学中にどの程度身に付けることが出来たかについては, 大学の教育の質に直結する問題であり, 大学の生き残りという視点からも重要であると考えられる。

以上のような教育改革を学生の視点から考えると, 在学中の学びにより自分自身が望むキャリアを形成することが出来るのかが重要となる。学生は様々な動機で大学に入学し, 学びを深めているが, 多くの学生は, 卒業後に自身の求める進路に進むことを希望していると考えられる。そのため教育を大学は求められていると言える。一方, 進路意識や目的意識が曖昧なまま入学する学生も一定数存在しており(文科省, 2010), 入学当初希望していた卒業後の進路が在学中に変化すること

も十分に考えられる。

このような学生がどのようなきっかけで進路変更を希望し, 自身の望むキャリアを形成していくのかについて理解することは, 卒業時の質保証を考える上で重要であろう。しかしながら, 在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について明らかにした研究はあまり見られない。

このような問題意識のもと, 申請者らは, 2018年度に学部4年生を対象に在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について質問紙調査を行った。具体的には, 大学生活, 大学で力を入れた活動, 資格取得, 将来についての考え方, 卒業後の進路等について, 資格取得をメインとする学科・専攻とそうではない学科・専攻による違いが見られるかについて女子大学生を対象に調査した。その結果, (1) 資格取得メインの学科・専攻に所属している学生は結婚ないし出産後も仕事を継続することを理想の生き方としていること, (2) 必ずしも大学での学びや取得した資格を活かせる進路先に進むことができるわけではないこと, (3) 入学した時点で希望していた進路と卒業時に希望する進路は異なること, などが明らかとなった。これまでの高等教育研究やキャリア教育研究においては, 学生のキャリア意識が4年間の中で変更する可能性があることについて, ほとんど焦点があてられることはなかった。また, 資格取得メインの学科・専攻とそうではない学科・専攻による比較を扱った研究も行われてこなかった。そのような中で, キャリア意識の変更や資格取得という視点を加えた在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について明らかにしたことは大変意義があったと考えられる。

一方、一つの大学、かつ、女子大学生を対象とした調査であったため結果の一般化の可能性について改善の余地があることや4年生ではなく、卒業生を対象に調査を行う必要があることが今後の課題として残されている。そこで、本研究では、在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について、卒業生を対象とした調査により明らかにすることを目的とした。

2. 研究実施内容

現在、まだ調査を実施している途中であるため、現段階での実施内容について報告する。

研究1：Webによる調査

調査対象者：日本全国の卒業・修了後10年以内の方100名（男性50名、女性50名）

調査内容：(1)年齢など基本的属性、最終学歴、大学への志望度・理由、生き方のタイプについて(2)大学で重点をおいた生活、正課内・正課外での活動に対する評価、大学に対する満足感について(3)在学中に取得した資格、在学中の進路変更の有無について(4)現在の仕事内容・満足度、転職経験・回数、転職理由について(5)人としての生き方のタイプ、生活満足度、人生キャリア・レディネス尺度(坂柳,1996)

研究2：対面によるインタビュー調査

調査対象者：日本全国の卒業・修了後10年以内の方12名（男性6名、女性6名）

調査内容：(1)年齢、結婚の有無など基本的属性、大学への志望度・理由(2)大学で重点をおいた生活、大学の教育に対する評価(良かった点、改善点)、大学に対する満足感(3)在学中に取得した資格(4)これまでの仕事内容・満足度、在学中の学びと仕事との関連(5)これから先のキャリア計画

3. まとめと今後の課題

現段階で得られた結果について、まとめて報告する。

研究1：Webによる調査

大学への志望度：大学(大学院)受験時の志望度について、希望していなかった(16:16%)、あまり希望していなかった(12:12%)、どちらとも言えない(20:20%)、少し希望していた(16:16%)、希望していた(34:34%)、覚えていない(2:2%)

であった。

志望理由：大学(大学院)を受験しようと思った理由について、教養や視野の拡大(14:14%)、就職に有利(12:12%)、興味のある専門知識、技術の習得(29:29%)、結婚に有利(1:1%)、免許・資格取得(12:12%)、将来の安定した生活(3:3%)、家族のすすめ(5:5%)、先生のすすめ(2:2%)、周りの人が行くから(5:5%)、特に理由はない(17:17%)であった。

大学(大学院)で重点をおいた生活：「なんとなく過ぎていく生活」「自分の趣味を第一においた生活」「良き友を得たり、豊かな人間関係を結ぶことを第一においた生活」が上位の3つであった。

大学(大学院)での教育に関する満足度：大学(大学院)での教育に関する満足度について、「満足していない(8:8%)」、「あまり満足していない(22:22%)」、「やや満足している(52:52%)」、「満足している(18:18%)」であり、7割が教育に満足していた。

総合的な満足度：大学(大学院)生活を振り返った総合的な満足度について、「満足していない(8:8%)」、「あまり満足していない(15:15%)」、「やや満足している(56:56%)」、「満足している(21:21%)」であり、約8割が大学(大学院)に満足していた。

進路変更の有無：入学した時点で希望していた進路とは別の進路を希望するようになったかについて、「はい(31:31%)」「いいえ(69:69%)」であった。

在学中に取得した資格や免許を活かした仕事かどうか：現在の仕事に在学中に取得した資格や免許を活かした仕事であるかについて、「活かしていない(11:36.7%)」「どちらかというを活かしていない(4:13.3%)」「どちらかというを活かしている(1:3.3%)」「活かしている(14:46.7%)」であり、約半数が在学中に取得した資格や免許を活かして仕事をしていることが明らかとなった。

在学中の学びを活かした仕事かどうか：現在の仕事に在学中の学びを活かせる仕事であるかについて、「活かせない(24:27.6%)」「どちらかというを活かせない(32:36.8%)」「どちらかというを活かせる(15:17.2%)」「活かせる(16:18.4%)」であり、6割以上が在学中の学びを仕事に活かせていないと回答していた。

人としての生き方のタイプ：現在、理想としている人生のタイプについて、「タイプ1：結婚しな

い・仕事しない (12 : 12%)」「タイプ 2 : 結婚しない・仕事する (13 : 13%)」「タイプ 3 : 結婚する・仕事しない (10 : 10%)」「タイプ 4 : 結婚・仕事する, 子どもなし (6 : 6%)」「タイプ 5 : 結婚・仕事する, 子どもあり, 退職する (29 : 29%)」「タイプ 6 : 結婚・仕事する, 子どもあり, 退職する (7 : 7%)」「タイプ 7 : 結婚・仕事する, 子どもあり, 子育て後復帰 (23 : 23%)」であり, 理想としている人生のタイプには様々なものがあることが明らかとなった。

研究 2 : 対面によるインタビュー調査

現在, まだインタビュー調査の実施をしている段階である。現段階で, 卒業後保健所や福祉施設, 保育園などで勤務している卒業 (修了) 後 10 年以

内の男女にインタビューを進めている。今後, データの収集が終了した段階で, 仕事の内容の違いによる在学中の学びと卒業後のキャリア形成の関連などの, 詳細な分析を行うこと, そして, Web 調査とインタビュー調査の結果を組み合わせ, データの解釈をしていくことを考えている。

4. この助成による発表論文等

2020 年度に学会発表および論文投稿を予定している。